

研修報告書 No.13

香川県での医療研修に慣れ親しんでいた私にとって、高知県宿毛市での地域医療研修は、新たな発見に満ちた経験でした。高知県の特有の気候や、他の医療圏との関係性、救急医療の発展の仕方に香川県との違いを感じ、これが非常に興味深かったです。約 69 万人の人口を擁し、面積 7,104 平方キロメートルに及ぶ高知県は、人口密度が 97 人/平方キロメートルと比較的低く、豊かな自然環境が広がっています。特に森林面積の割合が全国一位の約 83%を占め、緑豊かな地域特性が医療サービスの提供にも影響を及ぼしています。

宿毛市は高知市から遠く、地域内での医療サービス完結が重視される幡多地域に位置しています。この地域での医療サービスは、電子健康記録 (Electronic Health Record : EHR) 「はたまるねっと」のような地域密着型システムにより支えられ、効率的かつ効果的な医療の提供に貢献しています。人口あたりの総医師数や病院医師数は多い一方で、診療所医師数は少ない状況ですが、看護師数は多く、地域医療において重要な役割を担っています。

研修では、急性期の大病院での勤務とは異なり、地域医療の全体像を俯瞰することができました。保健所での研修を通じて、医療に関連する法律や制度、高知県全体の医療政策について学び、これが地域医療の理解を深めるのに役立ちました。臨床研修では、common diseases への対応、遠隔医療の活用、EHR の実践的な活用法を学びました。小規模病院の役割や訪問診療、訪問看護の重要性を学び、特に整形外科領域でのエコーの有用性について深い気付きを得ました。

高知県の歴史的背景、特に土佐藩や宿毛山内氏、新田開発を行った野中兼山、明治時代の自由民権運動などは、地域医療に対する深い理解を促しました。これらの歴史的な事実は、地域医療の実践において、文化や伝統を考慮することの重要性を示しています。

この研修を通じて得た知識と経験は、今後の医療活動において非常に重要な財産となります。高知県宿毛市での経験は、単に医療技術の向上を超え、地域医療の本質を深く理解する機会となりました。